

## 干拓地の暗渠排水中の溶存態有機物に対する炭化物の吸着効果 Effect of Carbide on Adsorption of Dissolved Organic Matter Contained in Under Drainage of Reclaimed Land

人見 忠良<sup>1\*</sup>, 久保田 富次郎<sup>1</sup>, 浜田 康治<sup>1</sup>  
Tadayoshi Hitomi<sup>1\*</sup>, Tomijiro Kubota<sup>1</sup>, Koji Hamada<sup>1</sup>

<sup>1</sup> (独) 農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所

<sup>1</sup>National Institute for Rural Engineering, National Agriculture and Food Research Organization

干拓地の暗渠排水に含まれる溶存態有機物に対する炭化物の吸着効果を検討した。回分吸着試験から炭化物は速やかに溶存態有機物を吸着し、数時間で平衡状態に達した。一方で、暗渠疎水材として一般に利用されるモミガラや砂では溶存態有機物に対する吸着効果は確認されなかった。このため、広く施工されている暗渠では、干拓地の暗渠から排出される溶存態有機物の除去効果は低いと考えられる。干拓地内の暗渠排水の全有機体炭素濃度は平均して 10.1 mg/L であり、その 97 % が溶存態であった。溶存態有機物に対する吸着効果の高い炭化物を浄化材として適用することは、水質保全対策として有効であると考えられる。

キーワード: 回分吸着試験, 全有機体炭素, 水質保全対策

Keywords: batch test, total organic carbon, water conservation measure